令和８年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

逗子市立沼間小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等　●課題や改善点等）
全国・県と比較して　∓５％の差が見られる内容について中心に分析し、自校の指導計画や授業づくりに活用してください。

【　国語　】

≪言葉の特徴や使い方に関する事項≫
●正答率 61.7%で全国（66.8%）と比較して約 5%下回っており、漢字を文脈に応じて正しく書き直す問題に課題が見られる。そのため、日常の学習活動において、意味や文脈を意識しながら繰り返し漢字を書く・使う機会を意図的に確保し、語彙としての定着の徹底を図る。

≪情報の扱い方に関する事項≫
●正答率 49.5%で全国（52.3%）と比べやや低く、記録メモの趣旨や説明内容の的確な理解に課題がある。そのため、情報を整理・構造化する学習の中で、「結局何が説明されているのか」という内容の要点を常に意識させる指導を工夫し、情報活用能力を高めていく。

≪話すこと・聞くこと≫
○正答率 64.9%で全国（65.8%）とほぼ同水準であり、一定の成果が見られる。日常的な対話や発表の素地は育ちつつある。今後はさらに、目的や意図に応じて話の構成を工夫したり、相手の発言の意図を正確に捉えながら聞いたりする活動を充実させ、対話的な学びを深めていく。

≪書くこと≫
●正答率は 42.9%であり、全国（45.7%）と大きな差はないものの、全体の正答率としては低く課題である。文章の構成や表現の意図・工夫を正確に読み取り、自身の表現に活かす指導の充実を図る必要がある。書く目的や相手を明確にし、推敲を重ねる学習活動を位置づけていく。

≪読むこと≫
●正答率 58.7%で全国（65.9%）を約 7%も下回っており、長文の文脈理解に顕著な課題が見られる。日常的な学習において「語彙・知識の拡充」「キーワードの抽出」「指示語・接続語に着目した文脈把握」を習慣化し、文章構造や重要情報を正確に読み取る力を育成していく。

≪児童質問紙　国語に関する質問≫
文章の理解と自身の経験を関連付けて表現する意欲や習慣に大きな課題が見られる。日常の授業において、本文の趣旨を踏まえながら自分の体験や考えを整理し、文章にまとめて記述する機会を意識的に増やしていく。読書等の言語活動を通し、自分の考えを表現する楽しさを味わわせたい。

【　算数　】

≪数と計算≫

●正答率は57.1%であり、全国（61.1%）・県（62.6%）と比較してやや低く、課題が見られる。基本的な計算手順の習得にとどまらず、数の仕組みや計算の工夫・意味を深く理解させる指導が必要である。日常の授業において、計算の根拠を説明し合ったり、概念の定着を図る練習を繰り返し行っていきたい。

≪図形≫

○正答率は56.5%であり、全国（55.3%）・県（57.0%）とほぼ同水準の成果が見られた。基本的な図形の性質や概念についての理解は概ね定着している。今後は、図形を統合的・発展的に捉えたり、構成要素に着目して筋道立てて説明したりする活動を取り入れ、思考力・表現力を高める授業づくりを推進する。

≪測定≫

○正答率は77.2%と高く、全国（78.1%）・県（79.7%）と同水準で良好な傾向にある。単位や測定の概念に関する基本的な理解が図られている。今後は、日常生活の中で量の大きさを実感させたり、目的や対象に応じて適切な単位を選択・活用したりする実践的な学習場面を継続して設定していく。

≪変化と関係≫

○正答率は43.8%であり、全国（41.1%）・県（44.2%）を上回るまたは同水準の成果が見られた。二つの数量の関係性を捉える素地は身につきつつある。今後は、表やグラフから変化の特徴を読み取ったり、言葉や式を用いて関係性を説明したりする指導を充実させ、概念の更なる定着を目指す。

≪データの活用≫

●正答率は47.8%で、全国（48.6%）・県（49.4%）と概ね同水準だが若干下回っている。目的に応じてデータを整理・分析し、判断の根拠として捉える力に改善の余地がある。問題解決の場面でグラフや表から傾向を読み取り、理由を添えて自分の考えを表現・記述する活動を積極的に取り入れていきたい。

≪児童質問紙　算数に関する質問≫

●算数の学習に対する意欲や「解き方を振り返る」といった主体的・対話的な学びの意識を高める必要がある。授業改善に向けて、自分の言葉で解き方をまとめたり、問題解決の過程を友人と共有・比較したりする学習場面を積極的に設定し、学ぶ良さや達成感を実感できる指導展開を図っていきたい。

◎児童質問紙の結果　特徴的なことや課題と考えられること等

・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるように様々な機関と協力し児童の不安を取り除いていきたい。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

国語・算数ともに基礎的知識の定着や、根拠を持って考えを表現・説明する記述力に課題が見られた。改善に向け全校で次の２点に取り組む。第一に、日常の学習で語彙や言葉の定着を図り、文脈に応じた漢字活用や文章構成の把握を習慣化する。第二に、各教科で自分の体験や解き方の根拠を具体的に記述・説明する学習場面を意図的に設定する。これらを通して、児童の思考力・表現力を確実に育む授業改善を全校で推進していく。